

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172800548		
法人名	特定非営利活動法人 うらら		
事業所名	グループホームうららびより金山 (櫻館)		
所在地	岐阜県下呂市金山町金山988-1		
自己評価作成日	平成30年2月9日	評価結果市町村受理日	平成30年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2172800548-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2172800548-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成30年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

うららびより金山は、常に地域交流を深める場として、現在多くのボランティア様のご協力により、各イベントに力を入れている。また、小学生児童様による福祉学習は、うらら館内において利用者様とゲーム、作品作り等、定期的に交流を深めている。  
下呂市においても、職員不足の傾向がみられるなか、毎年中学生生徒様による福祉体験の受け入れを積極的に行っています。  
多くの方々当施設を知って頂き、いつでも立ち寄って頂ける施設をめざし、下呂市全域にうらら新聞を 新聞折込とし、うららびより金山の素晴らしさを伝えていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の建築設計部門の知識を活かし、吹き抜けの天井から自然光を取り入れたり、中庭のアプローチには、竹や玉砂利で和の雰囲気演出されている。職員は、自分ができることを役割として分担し、利用者も自分で出来ることをやるという雰囲気が育っている。事業所の自己評価は、職員がユニットごとに行っている。アウトカムが昨年度よりダウンした項目もあったが、利用者の重度化や入退院、新しい利用者の不穩の対応、職員不足等が重なった時期でもあり、職員が真摯に評価した結果である。大変な時期を乗り越え、職員が協力して前向きに取り組む、課題を一つずつクリアしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(櫻館)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会時に理念唱和し、確認をし共有する様にした。	リビングには、色紙に書かれた理念が飾られており、利用者の生活の中にも溶け込んでいる。職員は、いつでも理念を意識してケアに取り組み、管理者が法人全体の会議で理念の実践等を報告している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中学2年生の職場体験、小学校5年生の福祉学習は、学校の協力もあり定期的に行っている。また、老人クラブの運動会、市防災訓練等の行事に参加し地域との交流を深めた。	小中学生の体験学習の受入れが継続されており、地域の福祉教育の役割を担っている。事業所周辺には、市の病院や道の駅、スポーツ施設、温泉施設など公的な施設が多く、様々な地域との交流に努めている。新聞折り込みから新聞を入れ、ホームの存在を知ってもらい取り組みもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の防災訓練に参加し入所者の方への支援をお願いした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、継続し開催している。出席して頂ける様、土日の参加を求めているが、参加者数の減少等に課題はある。	運営推進会議を定期的に行っている。参加しやすい日程に調整するなど工夫をしているが、参加者増加にはつながらない現状にある。出された意見や要望等は、職員会議で共有し、運営に反映させている。	日程調整では成果が見られない為、会議で取り扱うテーマを決め、地域や関係機関等に協力を依頼するなどの工夫により、会議の内容を充実させ、参加者の確保につなげられたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	下呂市では、多職種連携による、医療・介護の輪顔の見える関係づくりを目的とした会議をはじめとして、下呂市との毎月1回の懇談会及び金山地域連携会議が開催され、協力関係を築いている。	管理者は、多職種が意見交換する市の地域連携会議に出席している。介護職が不足している中、遠方への研修負担を行政に理解してもらい、市内で介護初任者研修が開催の運びとなるなど、協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は、防犯上施錠している。身体の拘束については、理解は深まっている。ご家族から要望があっても、身体拘束の弊害を説明し、事業所の方針を示している。	身体拘束をしないケアの徹底が、職員に浸透しており、家族からの要望があっても、見守りの強化、リスク対策により、拘束をしない寄り添う介護が行われている。転倒予防には、センサーマットやチャイムで対応し、筋力低下予防の体操などを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会等で意見交換を行い、防止に努めている。不適切なケアについて言葉遣いなど気になれば その都度、職員間で注意しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	うららびより全事業所の代表者及び管理者が集い成年後見制度について今後、学ぶ機会がある。職員会を通して勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書の読み合わせを行い、生活面での不安、問題点をお聞きできるように十分に時間を掛けている。また、物品購入などについても、十分説明している。場合により文章にて同意を得て購入する。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年々運営推進会議への出席者も少なく、土日開催も検討し実施したが、出席率が低い状況である為再検討が必要である。	利用者が1人ずつ、今の気持ちを伝える「がやがや会議」を開催し、利用者の要望等を拾い出している。防災訓練に参加した家族から、避難経路の確保についての意見が出され、改善されている。家族向け通信で、新職員を紹介している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて、職員の意見の場を設け。業務改善に努めているとともに、各職員には、係り担当を振り分け、職員会議時に報告頂き。うららの運営に活かしている。	防災、車の点検、花壇の管理など、職員がそれぞれ役割を担当し、各職員が働きがいを持って仕事に取り組んでいる。職員会議では、報告や気づいたことを積極的に意見として出せる環境にあり、それらを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員には、定期的に面談を行い、自己評価をして頂き、それをふまえ個々の力量を把握する。非常勤では、勤続年数に合わせて勤続賞がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の力量を把握するとともに、指摘事項があれば面談を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	うららびより全事業所の代表者及び管理者が集い毎週月曜日は、営業会議を行いサービスの質の向上をめざす。その一環として子供食堂の開催や空き家対策にも取り組んでいる。また毎月1回ケアマネ会議も開催し勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅やデイサービスへ出向き、事前面談をおこなっている。本人が安心できるように居宅のケアマネージャーや民生委員さんにも同席してもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込みにみえた段階で、ご家族の困っていること、施設に期待することを伺っている。サービスを導入する段階では再確認させていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントシートを用いて事前面談を行い、入居前に全職員が情報を把握するように努め、必要とする支援について話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気づくりに努め、食事やお茶の時間は利用者、職員ともにゆったりとした時間を持って頂いている。また、簡単な料理の下ごしらえ及び 書ける方には、館内のホワイトボードに献立を書いて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会時に本人様の状態をお伝えしながらご家族のご要望をお聞きしている。夏祭りやがやがや会議を開催して一緒に過ごす機会を作っている。外泊やご自宅の地域の祭りへの参加などはご家族に協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出支援等でお食事会、イベントへ参加することで知人の方から声を掛けて頂いたり、面会においても近所の方々が来て下さることが多くなった。	利用者の要望に応じて、家族への電話を取り次いだり、外出先で知人に出会った時には、仲介役をすることで関係の継続につなげている。住んでいた地域の祭りに参加して、馴染みの人と会ったり、来訪のボランティアとの新たな交流も生まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士楽しく会話され、良好な関係を築ける様、声掛けやサポートしている。また、孤独や不穏時は職員が間に入り、共に暮らしていける様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られる際には面談時に立ち会い、情報提供書をお渡ししている。退所後は面会に行き様子を伺っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスで、思いや意向を職員間で検討しながら把握に努めている。	利用者と常にコミュニケーションを取り、会話の中から、したい事、気になる事、してもらいたい事などを具体的に聞き出している。利用者の表情や顔色を意識して観ることで、思いを把握している。また、職員の気づきや家族からの情報も職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートや、入院看護要約でこれまでの経緯の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気づき、介護、生活、排泄記録及び職員間の情報共有で、利用者様の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回利用者様の課題を話し合っている。必要に応じて申し送りなどでも伝える様に努めている。	家族を交えての介護計画作成を試みたが、家族との日程調整がなかなか出来なく見合わせた。家族の面会時や電話で要望を聞き、介護日報、個別支援ファイル、申し送り帳、気づきノートの記録や職員の意見を取りまとめ、ケアマネジャーが計画を作成している。	支援内容と日々の介護記録が連動したものになるよう工夫し、支援計画を意識しながらケアに取り組み、モニタリングにも活かされることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り時に、夜間の様子を報告し共有している。生活記録、気づきノートに記入し全員で共有し支援に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設側の一時的なサービスにならない様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学生5年生の児童の方と福祉学習で触れ合い。月1回の音楽療法、各行事をはじめとして、フラダンス、手品、舞踊のボランティア様、モーニングなど地域資源の活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族様等の希望で、かかりつけ病院への継続的に受診を勧めている。状態、症状により、ご家族様に報告、相談し専門医を受診して頂いている。	かかりつけ医を継続し、家族に受診同行の協力を依頼している。民間移送サービスの利用もある。看護師が常勤しており、職員はいつでも相談できる環境にあり、利用者が適切な医療を受けられる体制にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間を通して、利用者様の身体や様子で気づいた事があれば、報告、連絡相談をし対処している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、口頭や文書にてご本人の状態や経過を、ご報告している。また、管理者及びケアマネージャー、看護師が伺い、ご本人及び病院関係者と情報交換を行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状態によっては、早めにご家族様、主治医、職員間で話し合いを行い、ご家族様の納得のいく説明をしっかりと行いながら支援を行う。	終末期の看取りについて、家族の気持ちを配慮しながら納得いくまで話し合い、事業所で出来る限りの支援体制を整え、最期までの支援をしている。職員研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に、急変時や事故発生時における勉強会を行っている。また、緊急時を想定し職員緊急連網の実施し連携をはかる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回定期的に訓練を実施している。また、地域の防災訓練に参加している。また、防災担当よりタイムラインを作成した。	年2回の災害訓練と、毎月、自主訓練を行っている。訓練で課題となった避難非常口のスロープや、中庭の玉砂利の一部をコンクリートにして、避難移動しやすいよう改善している。利用者も防災頭巾を装着して参加し、訓練の様子はホームダよりで家族にも報告している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様ひとり一人を尊重し、寄り添い優しい声掛けや、対応に心掛けている。	まだ入居して日が浅い不穏な利用者には、一緒に手をつないで対応したり、声を上げる利用者には、穏やかな声掛けで寄り添っている。夜中に居室で荷物の整理をしている人や、居室に施錠する人もいるが、見守りで利用者の主体性を尊重した実践が行われている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活での声掛けや見守り、会話で利用者様の希望や思いをくみ取り、小さな事から自己決定して頂ける様心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のご希望や体調、ペースに合わせて、ゆったり穏やかに過ごして頂ける様に心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	どの洋服が着たいと主張される方には、好きな洋服を。また、どれを着たら良いか迷われている方には、職員が選びその時季にあった洋服を着て頂ける様努めている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の一連の作業は、職員が行っている。時には下準備を一緒に行うこともある。	地元で食材を買い、職員が手づくりする食事は、味、量、彩り、どれも満足できるものとなり、ほとんどの利用者は完食である。食事中は、今の季節にふさわしい曲が静かに流れ、職員も一緒に食べながら、感想を言い合い、和気あいの雰囲気のある食事時間となっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日全体を通して、必要な食事や水分確保の支援をしている。カロリー不足の場合は、経腸栄養液を経口で内服して頂いている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕の食後には、必ず口腔ケアをして頂き、歯ブラシを持って磨けない方には職員が介助しケアに努めている。また、ご利用者様によっては、訪問歯科をご利用されている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表を確認し、パターンを把握し自立支援の工夫をしている。また、紙パンツからパットへ変更した事例もある。	利用者の排泄リズムで、職員は声掛けや誘導し、トイレでの排泄が習慣化されている。トイレ扉上に鈴が取り付けられており、夜間は、その音色でトイレ使用が確認できる。また、1階の吹き抜けから、2階廊下の様子がわかるように、天井梁に大きなミラーが設置されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	病院、医療の受診時には、医師に相談し予防に取り組んでいる。便秘予防として、ヨーグルトや食物繊維の多い食事の提供及び、運動等に心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	季節によっては、ゆず湯や菖蒲湯を用意。必要時浴槽内に椅子を置いて、安全に入浴して頂いている。時には、音楽を流し気分転換をはかりながら入浴して頂く。	入浴拒否の利用者には、風呂上りの楽しみの飲料を提供することで、入浴支援が円滑に運んだケースがある。外出時を利用して、温泉地ならではの足湯を楽しむ機会もある。地域に温泉スタンドがあるので、温泉を楽しんでもらうことも検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、休みたいとご希望されたら、居室にて休息して頂く様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の症状変化を看護師に報告。看護師より医師に報告して相談指示を仰ぎ、服薬の調整や支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、洗濯たみ、食器拭き等できる力に応じ、役割を持って頂き、張り合いにして頂いている。また外出や季節の行事を行い楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	都度、希望を伺う様に努めている。地域住民の協力を得られる様な取り組みをする必要がある。ボランティアの受け入れをし、外出支援を進める事が出来ると良い。	利用者の体力低下により、散歩が減ってきているが、近くにある道の駅や喫茶店、季節の花見等、ドライブを兼ねて出かけている。重度の利用者や新入居者が重なった時期、利用者の多くが安定している時など、外出の頻度に波があるが、職員の都合で外出の機会を無くさないように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族様の希望により、ご自身で管理して頂いている方もある。金庫で管理させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望や必要な場合には、自由に電話をして頂いている。また、プライバシーに配慮しながら電話をして頂ける様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングとキッチン、対面しており生活感のある空間づくりに努めている。ご利用者様が作った季節の作品、外出時や季節行事の写真をリビングの壁面に飾っている。洗面台には季節の花を花瓶に生け季節感を取り入れている。	リビングは窓が大きく、広いテラスもあり開放感がある。利用者はゆったりしたソファに座って、外の景色を眺めながら過ごすことができる。また、竹や障子を活かし、自然光を多く取り入れた穏やかな空間であり、居心地よく過ごせるよう整理整頓も行き届いている。ひな壇飾りや桜のちぎり絵作品には、季節感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の時の席については、状況に応じ工夫している。また、ソファやテーブル、椅子等の配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、ケアマネージャーが説明し、ご家族様の協力を得て実施している。馴染みの物を活かし、安心して過ごして頂ける様努めている。	夜間は居室に鍵をかけて就寝する人、自分で寝具を全部丁寧に畳む人、毎日、新聞を読む人、日記をつける人など、利用者一人ひとりのこれまでの生活習慣を大切にしながら、自分の家として過ごすことができる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	長期的には年々出来る事が少なくなり今後の課題となる。チャイム、鈴、センサーマットを活用し安全対策をしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172800548		
法人名	特定非営利活動法人 うらら		
事業所名	グループホームうららびより金山 (向日葵館)		
所在地	岐阜県下呂市金山町金山988-1		
自己評価作成日	平成30年2月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成30年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	適いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(向日葵館)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会時に理念唱和し、確認をし共有する様にした。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中学2年生の職場体験、小学校5年生の福祉学習は、学校の協力もあり定期的に行っている。また、老人クラブの運動会、市防災訓練等の行事に参加し地域との交流を深めた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の防災訓練に参加し入所者の方への支援をお願いした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、継続し開催している。出席して頂ける様、土日の参加を求めているが、参加者数の減少等に課題はある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	下呂市では、多職種連携による、医療・介護の輪顔の見える関係づくりを目的とした会議をはじめとして、下呂市との毎月1回の懇談会及び金山地域連携会議が開催され、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は、防犯上施錠している。身体拘束については、理解は深まっている。ご家族から要望があっても、身体拘束の弊害を説明し、事業所の方針を示している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会等で意見交換を行い、防止に努めている。不適切なケアについて言葉遣いなど気になれば その都度、職員間で注意しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	うららびより全事業所の代表者及び管理者が集い成年後見制度について今後、学ぶ機会がある。職員会を通して勉強会を行いたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書の読み合わせを行い、生活面での不安、問題点をお聞きできるように十分に時間を掛けている。また、物品購入などについても、十分説明している。場合により文章にて同意を得て購入する。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年々運営推進会議への出席者も少なく、土日開催も検討し実施したが、出席率が低い状況である為再検討が必要である。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて、職員の意見の場を設け。業務改善に努めているとともに、各職員には、係り担当を振り分け、職員会議時に報告頂き。うららの運営に活かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員には、定期的に面談を行い、自己評価をして頂き、それをふまえ個々の力量を把握する。非常勤では、勤続年数に合わせて勤続賞がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の力量を把握するとともに、指摘事項があれば面談を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	うららびより全事業所の代表者及び管理者が集い毎週月曜日は、営業会議を行いサービスの質の向上をめざす。その一環として子供食堂の開催や空き家対策にも取り組んでいる。また毎月1回ケアマネ会議も開催し勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅やデイサービスへ出向き、事前面談をおこなっている。本人が安心できるように居宅のケアマネージャーや民生委員さんにも同席してもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込みにみえた段階で、ご家族の困っていること、施設に期待することを伺っている。サービスを導入する段階では再確認させていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントシートを用いて事前面談を行い、入居前に全職員が情報を把握するように努め、必要とする支援について話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気づくりに努め、食事やお茶の時間は利用者、職員ともにゆったりとした時間を持って頂いている。また、簡単な料理の下ごしらえ及び 書ける方には、館内のホワイトボードに献立を書いて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会時に本人様の状態をお伝えしながらご家族のご要望をお聞きしている。夏祭りやがやがや会議を開催して一緒に過ごす機会を作っている。外泊やご自宅の地域の祭りへの参加などはご家族に協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出支援等でお食事会、イベントへ参加することで知人の方から声を掛けて頂いたり、面会においても近所の方々が来て下さることが多くなった。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士楽しく会話され、良好な関係を築ける様、声掛けやサポートしている。また、孤独や不穏時は職員が間に入り、共に暮らしていける様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られる際には面談時に立ち会い、情報提供書をお渡ししている。退所後は面会に行き様子を伺っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスで、思いや意向を職員間で検討しながら把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートや、入院看護要約でこれまでの経緯の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気づき、介護、生活、排泄記録及び職員間の情報共有で、利用者様の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回利用者様の課題を話し合っている。必要に応じて申し送りなどでも伝える様に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り時に、夜間の様子を報告し共有している。生活記録、気づきノートに記入し全員で共有し支援に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設側の一方的なサービスにならない様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学生5年生の児童の方と福祉学習で触れ合い。月1回の音楽療法、各行事をはじめとして、フラダンス、手品、舞踊のボランティア様、モーニングなど地域資源の活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族様等の希望で、かかりつけ医院への継続的に受診を勧めている。状態、症状により、ご家族様に報告、相談し専門医を受診して頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間を通して、利用者様の身体や様子で気づいた事があれば、報告、連絡相談をし対処している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、口頭や文書にてご本人の状態や経過を、ご報告している。また、管理者及びケアマネージャー、看護師が伺い、ご本人及び病院関係者と情報交換を行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状態によっては、早めにご家族様、主治医、職員間で話し合いを行い。ご家族様の納得のいく説明をしっかりと行いながら支援を行う。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に、急変時や事故発生時における勉強会を行っている。また、緊急時を想定し職員緊急連網の実施し連携をはかる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回定期的に訓練を実施している。また、地域の防災訓練に参加している。また、防災担当よりタイムラインを作成した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様ひとり一人を尊重し、寄り添い優しい声掛けや、対応に心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活での声掛けや見守り、会話で利用者様の希望や思いをくみ取り、小さな事から自己決定して頂ける様心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のご希望や体調、ペースに合わせて、ゆったり穏やかに過ごして頂ける様に心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	どの洋服が着たいと主張される方には、好きな洋服を。また、どれを着たら良いか迷われている方には、職員が選びその時季にあった洋服を着て頂ける様努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の一連の作業は、職員が行っている。時には下準備を一緒に行うこともある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日全体を通して、必要な食事や水分確保の支援をしている。カロリー不足の場合は、経腸栄養液を経口で内服して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕の食後には、必ず口腔ケアをして頂き、歯ブラシを持って磨けない方には職員が介助しケアに努めている。また、ご利用者様によっては、訪問歯科をご利用されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表を確認し、パターンを把握し自立支援の工夫をしている。また、紙パンツからパットへ変更した事例もある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	病院、医療の受診時には、医師に相談し予防に取り組んでいる。便秘予防として、ヨーグルトや食物繊維の多い食事の提供及び、運動等に心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	季節によっては、ゆず湯や菖蒲湯を用意。必要時浴槽内に椅子を置いて、安全に入浴して頂いて。時には、音楽を流し気分転換をはかりながら入浴して頂く。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、休みたいとご希望されたら、居室にて休息して頂く様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の症状変化を看護師に報告。看護師より医師に報告して相談指示を仰ぎ、服薬の調整や支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、洗濯たたみ、食器拭き等できる力に応じ、役割を持って頂き、張り合いにして頂いている。また外出や季節の行事を行い楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	都度、希望を伺う様に努めている。地域住民の協力を得られる様な取り組みをする必要がある。ボランティアの受け入れをし、外出支援を進める事が出来ると良い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族様の希望により、ご自身で管理して頂いてる方もある。金庫で管理させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望や必要な場合には、自由に電話をして頂いている。また、プライバシーに配慮しながら電話をして頂ける様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングとキッチン、対面しており生活感のある空間づくりに努めている。ご利用者様が作った季節の作品、外出時や季節行事の写真をリビングの壁面に飾っている。洗面台には季節の花を花瓶に生け季節感を取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の時の席については、状況に応じ工夫している。また、ソファやテーブル、椅子等の配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、ケアマネージャーが説明し、ご家族様の協力を得て実施している。馴染みの物を活かし、安心して過ごして頂ける様努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	長期的には年々出来る事が少なくなり今後の課題となる。チャイム、鈴、センサーマットを活用し安全対策をしている。		